

第1回匝瑳市市民協働のまちづくり委員会 会議結果概要

- 開催日時 平成27年7月30日(木) 午後2時から4時まで
- 場 所 匝瑳市役所議会棟第3委員会室
- 出席委員 関谷委員、那須委員、林委員、大木委員、萩原委員、椎名(嘉)委員、伊藤委員、松田委員、石田委員、勝又委員、加瀬委員、椎名(勤)委員、岩井委員(13名)(欠席なし)
- 市出席者 (特別職)太田市長
(事務局/企画課)太田課長、大木主幹、増形主査、小林主査補

発言者	内 容
	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. あいさつ ※市長あいさつ</p> <p>4. 自己紹介 ※委員名簿順に自己紹介 ※事務局紹介</p> <p>5. 議 事</p> <p>(1) 委員長、副委員長の選出について</p> <p>事務局 ・まちづくり委員会規則の規定により委員の互選により定めるとあるが、いかが取り計らったらよいか。</p> <p>委 員 ・事務局一任。</p> <p>事務局 ・事務局一任との意見があったがいかがか。 (異議なし)</p> <p>事務局 ・それでは、事務局案として、委員長には関谷委員、副委員長には椎名(嘉)委員にお願いしたい。 (異議なし)</p> <p>(2) 市民、団体、職員意識調査結果について ※事務局から資料5に基づき説明</p> <p>《各委員からの質問・意見》</p> <p>委 員 ・調査の実施概要について、職員の回収率が77.1%は低いのではないか。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおり。一旦締め切ってはいるが、その後も協力を呼びかけており、最終的には回収率をもう少し上げていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の調査対象は具体的にどのようなになっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的には、住民基本台帳をベースに 16 歳以上の市民 34,000 人を対象に無作為抽出している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・結果として地域の偏りが出てくるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い地域で調査対象者が多くなっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動団体はどのように抽出しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市で団体として把握している 62 団体全てを対象としている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査では各地区に対して良いバランスで配布されているようだが、この委員会の委員は地区ごとに選出されているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員については、各種団体や年齢、性別を考慮しているが、地域を考慮していない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の回収率が 35%となっているが、協働に対する意識がまだ浸透していないのでは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおり回収率が低い。市民協働というイメージが難しい部分があった。これを前提に考えていかなければいけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の方に聞いてみると、難しく回答が大変だったのでやらなかったという声を聞いた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P6 について、平和地区では社会福祉協議会が中心になって独居世帯を把握し、避難の手はずを決めているなど協働事例がたくさんあるが、アンケートではあまり盛んではないという結果が出ている。市民も職員もまだ関心がないのでは。どのように関心を高めていくかが課題になっていくのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・働き盛りの 40 代 50 代の回答割合が低いが、配布数はどのくらいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別の配布数は把握していない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容が難しい。私の家に調査票が来たが、19 歳の子どもが「これはわからない」といっていた。委員の中に 20 代の人がない。この年代の人たちが住みやすいまちづくりも考えないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・回収率が少ないが、この結果は参考になるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・統計上からは信頼できる回収数である。ただ、クロス集計などにより母数が少ない場合などは考慮すべきところはある。平和地区は地区社協を中心にいろいろな活動をしている。まだ知られていない部分もあり反省しなければいけない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・集計結果については、あくまでも 1 つの側面、傾向として捉えるべきで、これに拘束されることはない。地区別の状況を見る場合は、もう少し丁寧にヒアリングをすると、違った状況が見えてくるかもしれない。全体として匝瑳市がどういう状況にあるのか参考にさせていただきたい。回収率について、こ

	<p>の方法による調査では 35%は一般的な数値であり、実態を反映していないということはない。アンケートが難しいというのは御指摘のとおり。聞き方としてはこのような形にならざるを得ないが、例えば「地域活動」といった場合、どのようなことかイメージしにくいのでは。特に 10 代 20 代では情報を持っていない。それも 1 つの現状として御議論いただきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際には協働に参加しているような方でも、違う回答がされていることもありそうだ。もう少し集計結果を精査していただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働」という言葉を知らなくても、地域でやっている個々の活動はよく分かっているなど、言葉と実態がどこまで結びついているかも定かではない。今後、分析していただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば「協働という言葉を知っているか」という設問と、「地域活動に参加しているか」という設問をクロス集計するなど、協働の認知度と地域活動の状況の傾向を分析したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「きょうどう」と聞くと、「共同」を思い浮かべる。「さんかく」も「参画」ではなく「三角」をイメージする。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働」がこれだけ全国で使われるようになったのはここ 10 年くらい。まだまだ浸透していない。「参画」は計画段階から一緒にやっていくことを強調していて、だいぶ普及してきている。「協働」という言葉に厳密な定義はなく、それぞれの場でいろいろな意味を込めて使っている。ポイントとしては、行政だけが単独でやるのではなく、市民や団体、地域と連携してやっていくこと、市民相互での協力関係、横のつながりをつくっていくことを強調していくことが多い。このあたりを念頭においてイメージして、匝瑳市なりの協働を定義し、市民にどのように伝えていくか議論していければいい。
	<p>(3) 市民協働の事例について ※事務局から資料 6 に基づき説明</p>
委員	<p>《各委員からの質問・意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務省が全国の事例を出している。匝瑳市にあった事例があれば参考に御提供いただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事例については今後の会議の中でも共有していきたい。協働はあくまでも手法である。協働とは横串であるとよく言われる。特定の分野、部署だけの話ではない。匝瑳市なりの課題にあった手法の事例を紹介できればいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政だけで全てを賄う時代ではなくなっている。人口減少で行政組織も小さくなり、高齢者を支える若い世代も減ってきている。が、あまり硬く考えてしまうと、市民がついて来られなくなってしまう。事例を参考に匝瑳市に合ったものが見つかればいい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおり、形態や手法にこだわりすぎないほうがいい。むしろ、震災

委員	<p>のときに実際にどのように取り組まれたのか、そのときの思いなど、具体的な事例を考えてみるところから、どのような連携体制、支援体制があったらいい、ということ議論したほうがわかりやすい。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 匝瑳市に合っていそうな事例を探すのではなく、匝瑳市のアイデンティティを定義しないと、合っているかどうかわからない。自立した匝瑳市にしていくためには、匝瑳市の強み・弱みを含めて総合的に考え、他の事例を参考にして、匝瑳市独自の協働づくりを進めていくべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな発見という部分も必要であり、事務局には豊富な事例・資料を提供いただきたい。それらを皆さんの目線で見てください、匝瑳市で抱えている課題を補うことにつながるのか、新しいことをしていこうとした場合に匝瑳市に根付くのか、議論いただきたい。他で成功しているからといってそれを匝瑳市でも、というのは最悪のパターンである。
事務局 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 6-2 に書かれている職員アンケートでの事例は、現在行われている市民協働の事例ということか。アンケートで協働がわからないというのは、これらの活動が協働であるということが理解していないということになる。いつどこで何をしているのかがわかれば参加できるという回答もあったので、具体的なものがあれば参加にもっていけるのかな、という気持ちはある。
事務局 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在行われているものだけでなく、過去に実施していたものもある。 ・ 協働ということを意識していなくても、実績としてそれらをやっていることもあるし、改めて協働ということ踏まえたときにもっとできることもありうる。職員も協働について難しく感じていることも多い。住民の方と一緒にやっていくとなると時間もかかるいろいろな考え方も出てくる。行政の物ごとの進め方と市民の考え方や物ごとの進め方とはどうしてもずれがあり、協働は職員の方にとっても難しいというのが一般的。でもそこを乗り越えていければ、市民の活力がもっと活かされる。
	<p>(4) 今後の予定について</p> <p>※事務局から資料 4-1 に基づき説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報そうさにまちづくりのアイデアを募集していたが、この委員会と兼ね合いはあるのか。また、最終的に条例を作っていくことが本委員会の使命かと思うが、最終的には市の発展、市民の幸せに着目していかないといけない。策定手法にこだわると大切なことが埋没してしまう懸念がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一点目について、国の地方創生における長期ビジョン・総合戦略を踏まえ、匝瑳市でも今年度、人口ビジョン・総合戦略を策定する。まちづくりアイデアの募集は地方創生に関するものであり、市民協働のまちづくりとは別物である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生に向けた総合戦略の策定に全自治体がほぼ同時並行で取り組んでい

	<p>る。地方創生とは、ひとの流れをつくる、雇用をつくる、結婚・子育て環境を整えるということを柱にして、国として方針を立て、国は地方にお金を出していく、それを地方がどのように活用していくか、ということを進めている。それに向けたアイデア募集ということであるが、地方の活性化には協働は大きな意味を持つものであり、広い意味でいえばつながっている。協働はあくまでも手法であり、市の発展、市民の幸福が目的であるので、そこは見失わないようにしていきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料の事前配布について、何日前くらいにいただけるか。また、電子メールであれば、電子資料でいただけるか。資料については、どの辺りまで見せてよいものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料の事前配布については、開催通知とともに遅くとも10日前までにはお送りしたい。電子メールで添付する形であれば、もう少し早い段階でお送りできる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料について、匝瑳市は、まちづくり委員会は審議会に位置付けられており、審議会は原則公開となっている。傍聴希望者は傍聴もできる。審議いただいた内容についても市のホームページに掲載する予定である。配布した資料も掲載するので、基本的には公開するものである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の着地点はどのようなものか。条例をつくるのか。どのような条例になるのか。こういう場合は条例を策定するのにふさわしいのか。条例となるとかなり文言が難しいのでは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 最終的に条例を策定するが、条例は議会の議決が必要である。また、条例は国でいうところの法律であり、ルールが必要になってくる。皆様に御検討いただくのは条例案ではなく、あくまで指針案であり、基本的な考え方をまとめていただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 次回の委員会で、いくつか指針や条例のサンプルを提供いただければイメージしやすいのでは。千葉県内でもいくつかある。指針とは、匝瑳市で協働を進めていくというのはどういう考え方でいくのか、ということ。どういう形でまとめるのかについては今後の議論次第である。指針レベルでは自治体によって全然表現の仕方が違う。皆様のアイデアを集約しながら考え方をまとめていきたい。いずれにしても指針の素案が今年の秋ということで日程的にはかなりタイトである。次回のワークショップでは、匝瑳市の強み、弱みについて御議論いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> そういうのは次回の資料の中に入れていただけるのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局と相談して、皆様が意見を出しやすいようなものを資料として入れていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが活動している活動状況を報告する形か。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 詳しい活動状況というよりも、今後のまちづくりを考えていくに当たり、この立場としては、このような活動をしているというのを概要でよいので、次

委員	<p>回のワークショップでお示しいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働というものの定義はいろいろある。委員会の中で共通認識を持たないといけないのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働についての意見交換ができていないので、テーマを共有化できていないのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおり。進め方として、最初にたたき台として事務局から示したほうがやりやすいのか、それともワークショップを重ねながら共通認識として固めていくというやりかたのほうがよいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップをやりながらのほうがよい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなワークショップを経験しているが、定義問題から入ると議論が空転する可能性がある。さまざまなイメージを出していただき、要するにこういうことだよ、と形で集約していったほうがまとめやすいのではないか。ワークショップでいろいろな実情や考え方をお聞かせいただきながら少しずつ形を固めていく、ということで進めていくことでよいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・では、本日のスケジュールに入っていた「協働に関する意見交換」は、今回はしないということでよいか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局はゆるい形での意見交換を想定されていたのかと思う。具体的な議論は次回からということでお願いしたい。
	<p>(5) その他</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録を市のホームページに掲載することを了承いただけるか。(異議なし)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・発言者は個人名ではなく「委員」ということにする。
	<p>6. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>